

「宗憲に則り、本廟崇敬の務めを尽くし、いよいよ深く真宗の教法を聞信し、もって同朋各位の信託に忘えん」と、門首継承式において宗祖親鸞聖人と皆さまにお誓い申し上げてから、約二十四年の長きにわたって、門首として歩ませていただくことができました。

その間、蓮如上人、宗祖親鸞聖人の御遠忌法要や、両堂等御修復という歴史的事業にも出遇うことができ、また東日本大震災をはじめ、頻発する災害の中で悲しみをともにいたしました。

いついかなる時も、皆さまとともに聞法し、皆さまとの交わりに支えられて、新しい宗憲に定められた門首としての務めを何とか今日まで果たすことができたとは仏祖の恩をあらためて感じております。今日までのお支えに、心から深く感謝を申し上げたいと思います。

私たちにまで連綿と受け継がれてきた宗祖親鸞聖人のお念仏のみ教えが、未来永劫にわたって相続されていくことを心から念願しつつ、生涯聞法の一路を辿らせていただきたいと思います。

二〇二〇年六月三十日

真宗大谷派第二十五代門首 大谷 暢顯 (釋 淨如)